



No. 54

10. September. 2024

日本ホスピス緩和ケア協会

NEWS LETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所内

TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website <https://www.hpcj.org/> E-mail info@hpcj.org

総会・新理事会が 開催されました

2024年 7月20日(土)、第17回総会がオンラインで開催されました。詳細は総会議事録をご確認下さい。

総会では新理事が選任され、8月4日に開かれた新理事会において、理事長、副理事長が互選により選出されました。

理事長就任のご挨拶 協働と連携を深化し、 より良い緩和ケアの実現へ



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 安保 博文

この度、2024年8月4日に行われた理事会にて理事の皆様のご推挙をいただき、理事長の大役をお引き受けすることになりました。

私たちの協会は、1991年に柏木哲夫会長のもとに結成された全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会をその前身としています。その後、緩和ケアの提供の場が在宅や一般病院に広がったことを受け2004年に日本ホスピス緩和ケア協会に名称を改め、山崎章郎会長がその発展に力を尽くされ、2007年には特定非営利活動法人を取得しました。2010年からは志真泰夫理事長のリーダーシップのもと、専門的なホスピス緩和ケアの質の向上と緩和ケアの普及に向けた活動に積極的に取り組んできました。2024年8月現在、当協会は緩和ケア病棟391施設をはじめとする合計 673（正会員535、準会員117、賛助会員21）の緩和ケアに関連する会員によって構成されています。

私たちの協会は、会員の多くが緩和ケアを提供する施設や団体であることが大きな特徴です。このため、協会の主な役割は、各会員施設のチーム力・マネジメント能力を高めることにあります。チーム運営管理の共有、ケアの質の評価と改善、多職種協働の支援、地域での連携促進などを通じて、施設内外の協働と連携を深化させ、より良い緩和ケアを実現することを目指

しています。

近年、緩和ケアの対象が広がり、緩和ケアを担う施設も多様化する中で、どのようなケアがより良いケアなのか、という目標も多様化しています。また、地域によっては緩和ケアを担う人材不足も深刻な状態となっています。今後2年間の理事長としての任期中、会員施設の抱える課題や各地域の緩和ケアのニーズを考慮しながら、協会としての役割を全うし、会員施設の皆様とともに緩和ケアの発展に貢献していきたいと考えています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

副理事長就任のご挨拶



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 林 章敏

この度、日本ホスピス緩和ケア協会の副理事長に就任いたしました。安保新理事長のもと、新たな体制で協会の活動に尽力する機会をいただき、光栄に思うと共に、大変身の引き締まる思いが致します。私たちの使命は、緩和ケアを必要とする全ての患者さんとご家族が、質の高い、心のこもった緩和ケアを受けられるように支援することです。安保新理事長の働きを補佐し、志真前理事長が力を注いでこられた体制を発展、成熟させながら、患者さん・ご家族一人ひとりのニーズに応えてまいりたいと思います。またそのために尽力される各施設が持てる力を十分に発揮できるよう、環境を整えるよう努めてまいります。

私自身がこの協会に初めて参加したのは、京都にある日本バプテスト病院にホスピスを開設した1995年からになります。それから聖路加国際病院での勤務を経て29年が経過しました。その間の変化から見えるのは、まさに、志真前理事長が先日の総会の時に示していただいた協会の成熟に向けた五つの課題、①人材の確保と育成、②専門性の確立と階層化、③在宅緩和ケアの普及と療養場所の多様化への対応、④地域包括ケアと専門的緩和ケアの役割、⑤がん以外の疾患への取り組む新たなケアの創造、などの課題とその難しさです。その課題の解決のためには、現場の声を反映させながら、皆様のお力添えをいただき、一丸となって取り組む必要があります。何卒、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 田村 恵子

2024年8月の第43回理事会において、副理事長に再任されました。これは、さらに2年間、安保新理事長を支え、協会の発展に尽力しなさいという皆さまのご意向であると受け止めて、責任をもってつとめさせていただきます所存です。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、緩和ケア病棟の運営やケアの質が大きく変わりましたが、この3年間でさらに専門性への理解と関心が高まってきました。私は長年、協会の教育支援活動に携わり、その重要性を深く認識しています。教育支援は、専門的緩和ケアの実践に欠かせない基盤であり、協会の目的を達成するための役割を担っています。

教育支援委員会は、MSW教育支援部会、看護師教育支援部会、多職種教育プログラム作成WGの3つから構成されています。MSW部会では、緩和ケアに従事するMSWのソーシャルワークの質向上を目指したセミナーを開催し、看護師部会では、SPACE-Nプログラムの開催やラダーを用いた評価法の活用など、専門的教育支援を提供しています。多職種教育WGは今期、多職種教育プログラムの開催に取り組み、将来的には各支部が主体となって教育プログラムを展開することを目指しています。

今期は医師教育支援部会が休会しますが、緩和ケア病棟での専門性の高い医師像の探求と、そのための教育支援を考えていきます。皆さまのご支援とご協力を引き続きお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 宮下 光令

この度、3期目の副理事長を仰せつかりました東北大学の宮下です。今期も緩和ケアデータベース委員会の委員長を拝命しております。

緩和ケアデータベース委員会の1つの役割は施設概要調査によって日本の専門的緩和ケアに関する基礎的データを整理することです。施設概要調査は前身の全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会時代からなされてきましたが、診療報酬改定等の際に項目の追加が行われてきた結果、かなり膨大なデータのご提出をお願いすることになっておりました。現在、項目の見直しを進めており、半分程度まで項目数を削減、特に毎年の入力や集計が必要な入退院状況のデータに関する負担を軽減したいと考えております。施設概要調査には地域の緩和ケア病棟の現状を知ることができるという利点もありますので、是非ともご活用いただければと存じます。

また、2020年よりインターネットを利用した遺族調査システムの管理をしております。2024年8月現在、173施設にご登録いただいております。ご遺族からは9,600件のご回答をいただいております。本システムの本格運用は新型コロナウイルス流行開始時でしたので、面会制限関係の項目も加えました。その結果、ご遺族は面会制限を仕方ないと考えており、面会制限中でも緩和ケア病棟等のスタッフから丁寧なケアを受けたと評価していることがわかりました。

緩和ケアデータベース委員会では今後の2年間にこれらの仕組みの改修を行い、施設の負担を軽減し、これらが有効に活用されるように各委員会等と連携していきたいと考えております。個人的には安保新理事長を支え、委員会活動を通して新理事や会員のみなさまに貢献できればと思います。よろしくお願い申し上げます。

【新体制】

理事長	安保 博文 [医療法人若葉会六甲病院]
副理事長	林 章敏 [日野原記念ピースハウス病院]
同	田村 恵子 [大阪歯科大学大学院看護学研究科]
同	宮下 光令 [東北大学大学院 医学系研究科]
常任理事	理事長・副理事長
	木村 祐輔 [岩手医科大学 緩和医療学科]
	高宮 有介 [昭和大学医学部 医学教育講座]
	池永 昌之 [淀川キリスト教病院]
	白山 宏人 [大阪北ホームケアクリニック]

理事長退任のご挨拶 月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
前理事長 志真 泰夫

成熟期へと進化を

2020年からの3年間のコロナ禍は全国の緩和ケア病棟、そして緩和ケアに大きな影響を与えました。緩和ケア病棟では集団感染に伴う病棟閉鎖、感染症対応病棟への転用、厳しい面会制限など、その運営に大きな影響を与えました。一方、病院での面会制限を受けて在宅療養を選択する患者と家族が増加して、緩和ケアのあり方にも影響を与えました。緩和ケアはコロナ禍を経て発展期から成熟期に質的に変わる過程にあるのかもしれない。

安保新理事長はじめ新たな世代の執行部にこれからの時代を託したいと思います。緩和ケアの発展期から成熟期への進化は、まず緩和ケアの専門性確立とともに基本的な緩和ケアが普及する階層化、そして在宅緩和ケアの普及による療養場所の多様化、さらにがん以外の重い病に取り組む新たなケアの創造が鍵になるのではないかと、思います。いずれにせよ、新たな発想と新たなエネルギーで時代を切り開いてほしいと思います。

松尾芭蕉『奥の細道』の冒頭に「月日は百代（はくたい）の過客（かかく）にして、行き交ふ年もまた旅人なり」とあります。わたしも人生の旅人として、これからも旅を続けます。

普及期から発展期へ

2010年8月の総会で理事長を拝命して、早や14年、山あり谷ありの歳月でした。2007年の「がん対策基本法」施行とそれに基づく「がん対策推進基本計画」策定は、緩和ケアの発展期への転換点でした。緩和ケアが「がん対策」という国の政策に組み込まれることで、「がん緩和ケア」ともいえる領域が形作られ、協会の活動もそれに大きな影響を受けました。

この10年間余りの当協会の歩みを振り返ってみると、主な取り組みとして①緩和ケア病棟を対象とした質の評価と向上、②診療報酬改定への提言、③看護師の専門的緩和ケア教育プログラムの実施、④在宅緩和ケアの質の基準策定、⑤緩和医療学会をはじめとした緩和ケア関連団体との協働、この5つが挙げられます。

支部推薦 理事一覧

北海道支部

藤原 葉子 ホームケアクリニック札幌 院長
下倉 賢士 ホームケアクリニック札幌 ソーシャルワーカー

東北支部

木村 祐輔 岩手医科大学緩和医療学科 教授
松尾 直樹 外旭川病院 ホスピス長

近畿支部

安保 博文 六甲病院 院長
池永 昌之 淀川キリスト教病院 緩和医療内科・ホスピス主任部長
白山 宏人 大阪北ホームケアクリニック 院長

中国支部

石原 辰彦 岡山済生会総合病院 診療部長
沖政 盛治 JR広島病院
緩和ケア内科主任部長

関東甲信越支部

三枝 好幸 桜町病院 ホスピス科部長
高宮 有介 昭和大学医学部 医学教育講座
客員教授
林 章敏 日野原記念ピースハウス病院
副院長
阿部 文明 山梨県立中央病院
緩和ケアセンター統括部長
山田 祐司 愛和病院 理事長

東海北陸支部

龍澤 泰彦 石川県済生会金沢病院 副院長
白井 正信 藤田医科大学医学部
外科・緩和医療学講座 教授
飯沼 温美 岐阜清流病院緩和ケア病棟 看護師

九州支部

柏木 秀行 飯塚病院 連係医療・緩和ケア科部長
前田 達観 くまもと在宅支援病院
緩和ケア病棟専任医師
進藤 美舟 JCHO 九州病院 副看護師長
内田 浩稔 準会員 医療ソーシャルワーカー

四国支部

成本 勝広 四国がんセンター 緩和ケアセンター長
大西 綾花 高松平和病院緩和ケア科部長

協会の事業と委員会活動

当協会は、8支部から選出された「支部推薦理事」と、法人の活動を推進する「理事会推薦理事」で理事会が構成されており、2022年度より全ての理事が専門委員会の活動に参加しています。2024年度の事業と各委員会の構成メンバーをご紹介します。

★：委員長 下線：理事会推薦理事

教育支援委員会

★田村 恵子 大阪歯科大学大学院看護学研究科開設準備室教授
市原 香織 淀川キリスト教病院 がん看護専門看護師
太田多佳子 松山ペテル病院 医療相談室・地域医療連携室室長
【部会】看護師教育支援部会、MSW教育支援部会
【WG】多職種教育プログラム作成WG、SPACE-N WG

認証委員会

★高宮 有介 昭和大学医学部 医学教育講座 客員教授
志真 泰夫 筑波メディカルセンター病院 代表理事
江藤美和子 ヘルランド総合病院 外来・がん相談支援センター
林 章敏 日野原記念ピースハウス病院 副院長
阿部 文明 山梨県立中央病院 緩和ケアセンター統括部長
岡山 幸子 宝塚市立病院 看護部看護部長
石原 辰彦 岡山済生会総合病院 診療部長

質のマネジメント委員会

★池永 昌之 淀川キリスト教病院 緩和医療内科主任部長
安保 博文 医療法人若葉会 六甲病院 院長
柏谷 優子 辻仲病院柏の葉 看護部長
足立 光生 神戸アドベンチスト病院 看護部長
大園 康文 目白大学看護学部看護学科地域在宅看護学 教授
石井 友恵 早稲田大学大学院人間科学研究科 緩和医療学・臨床死生学研究室
坂下 明大 兵庫県立はりま姫路総合医療センター緩和ケア内科 診療科長
小池 瞬 公立富岡総合病院 看護部

緩和ケアデータベース委員会

★宮下 光令 東北大学大学院 医学系研究科 教授
佐藤 一樹 名古屋大学大学院医学系研究科 教授
橋本 淳 岡崎市民病院 緩和ケア内科統括部長
橋本孝太郎 ふくしま在宅緩和ケアクリニック副院長
關本 翌子 国立がん研究センター中央病院看護部長
光齋 久人 六甲病院 医師
伊藤 里美 東北大学大学院医学系研究科 大学院生(看護師)

在宅緩和ケア委員会

★白山 宏人 大阪北ホームケアクリニック 院長
井尾 和雄 立川在宅クリニック 理事長
藤原 葉子 ホームケアクリニック札幌 院長
雨森 優子 Hospice mind LLC 代表
内田 浩稔 準会員 医療ソーシャルワーカー

医療・介護保険委員会

★林 章敏 聖路加国際病院緩和ケア科部長
山田 祐司 愛和病院 理事長
風間 郁子 ウィル訪問看護ステーション江戸川 がん看護専門看護師
村井 扶 株式会社ゆそえる あげぼの薬局管理薬剤師
足立 誠司 国民健康保険 智頭病院 院長
下倉 賢士 ホームケアクリニック札幌 ソーシャルワーカー
大西 綾花 高松平和病院緩和ケア科部長

事業		活動内容
事業 1	啓発・普及	ホスピス緩和ケア週間 啓発・普及活動の呼びかけ
事業 2	教育・研修	看護師教育セミナー SPACE-Nプログラム MSWセミナー 多職種教育プログラム 各支部でのセミナー・講演会
事業 3	質の向上 調査研究	質向上の取り組みに関する認証制度 自施設評価共有プログラム 緩和ケア運営管理者セミナー 施設概要・利用状況調査 インターネット遺族調査 厚生労働科学研究への協力
事業 4	広報 情報交換	ニュースレター発行 メールマガジン発行 在宅緩和ケアメーリングリストの運用 支部幹事会 地域緩和ケア連携 オンラインセミナー
事業 5	国内外 連携	緩和ケア関連団体協議会会議 日本在宅ケアアライアンス活動参加 ホスピス緩和ケア国際協力コンソーシアム会議 APHNとの連携協力
その他	管理 業務等	理事会・総会の開催 会員管理、求人情報、財務管理等 診療報酬改定に向けた検討と提言

支部・地域活動支援委員会

★木村 祐輔 岩手医科大学 緩和医療学科 教授[東北]
藤原 葉子 ホームケアクリニック札幌 院長[北海道]
松尾 直樹 外旭川病院 ホスピス長[東北]
三枝 好幸 桜町病院 ホスピス科部長[関東甲信越]
山田 祐司 愛和病院 理事長[関東甲信越]
龍澤 泰彦 石川県済生会金沢病院 副院長[東海北陸]
臼井 正信 藤田医科大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授
[東海北陸]
白山 宏人 大阪北ホームケアクリニック 院長[近畿]
石原 辰彦 岡山済生会総合病院 診療部長[中国]
成本 勝広 四国がんセンター 緩和ケアセンター長[四国]
前田 達観 くまもと在宅支援病院 緩和ケア病棟専任医師[九州]

第17回総会・意見交換会開催報告

第一部：総会

2024年度の総会は、7月20日(土) 9:00～12:00の日程で、オンラインにて開催いたしました。

議決事項については、2023年度事業報告・決算が事務局からの説明後に承認された他、本年は役員改選の年であることが理事長より説明され、役員候補者の紹介後に承認されました。

また、2024年度の事業計画および予算については、総会に先立って行われた理事会で承認された旨の報告が行われました。

第二部：意見交換会

本年度は「ホスピス緩和ケアの専門性とその評価」をテーマに意見交換会を開催いたしました。

最初に志真泰夫氏より『ホスピス緩和ケアの専門性と質の評価ーこの10年余を振り返ってー』と題して講演が行われ、協会における質の評価への取り組みと、専門的緩和ケアにおけるクリニカルオーディットの必要性についてお話いただきました。また、成熟期に向けた協会の課題として、「人材の確保と育成」「専門性の確立と階層化」「在宅緩和ケアの普及と療養場所の多様化」「地域包括ケアと専門的緩和ケアの役割」「がん以外疾患に取り組む新たなケアの創造」の5つが示されました。

続いて、宮下光令氏より「オーディットは医療者評価から患者評価へ」と題して、オーストラリアの患者登録システムであるPCOCの説明と、日本版のPCOC開発のために厚生労働科学研究でパイロット調査を実施しており、2025年以降の調査施設の拡大に協力いただきたい旨が呼び掛けられました。

また、田村恵子氏からは「専門的緩和ケアに従事する医療者の教育をどう進めるのか」をテーマに、協会における教育プログラムの紹介、これまでの取り組みと課題についてお話いただきました。

最後に安保博文氏より「『苦痛(つらさ)』のケアの質の向上とマネジメント」のテーマで、緩和ケアが対象とする「苦痛(つらさ)」は多面的であることが示され、その苦痛に対応するにあたり障害となっている課題と、協会が取り組む方向性についての考えが示されました。

発表が行われた後は、ご意見や感想をチャットへ書き込んでいただくよう参加者へ呼びかけました。191件

の書き込みが寄せられ、「Clinical Auditの重要性が理解できた」といった声の一方で「患者評価に取り組むためには人材確保と育成が課題である」といった声が寄せられました。その場で全てのご意見を取り上げることは難しかったため、チャットの書き込みは総会後に参加者へメールで共有いたしました。また、参加者に実施したアンケートでは、約90%が意見交換会について「良い」「大変良い」との評価でした。

ホスピス緩和ケアでAuditを行う利点

スタッフにとっての利点：

1. 患者と家族の抱える問題点が詳細に把握できる
2. 自分自身の仕事の質を評価して、改善の方法を見つけることができる
3. ケアの目標や結果について、系統的に考えることができる
4. ケアの「どこが効果的」で、「どこが効果的ではないか」を知ることができる

厚生労働省2023 公募内容

- 緩和ケア病棟や緩和ケアチームで、海外の先行事例を参考に、提供されるケアの質を評価できるデータを出す
- そのデータに基づき、専門的緩和ケアの質を向上させるオーディットサイクルを機能させる
- 国内の関連する団体と密接な関係をもって行う

(3) 求められる成果

- ・ 緩和ケアチームや緩和ケア病棟の医療従事者等による、がん患者に提供される専門的な緩和ケアの質を評価する方法の開発（収集すべき情報、収集の方法、収集した情報の解析方法を含む）と、その妥当性を示す資料
- ・ 開発した評価方法に基づいた、緩和ケアチーム等の専門的な緩和ケアの質を向上させる手法の検討

創造性 行動力 主体性

当法人における教育支援の課題とは？

直面している課題：

- ・ 教育（支援）を担う人材の不足
- ・ 教育プログラムの企画・運営・継続への支援の不足

今後に向けて検討が必要なこと：

- ・ 各職種の専門性を高めるための教育をどこまで担うか
- ・ 基本的緩和ケア教育の支援をいつまで継続するか
- ・ 支部における教育活動をどう支援するのか

ご協力よろしくお願いいたします

課題への今後の取り組み方は・・・

- ◆ 「苦（つらさ）」に焦点をあて、基本的ケアと専門的ケアの協働を進める
- 多面的な問題に対応し、医療者とその関係者が施設内外で協働することを支援する
- 協働に向けたマネジメントの障害を取り除いていく

個人的意見

【発表の様子／上から志真泰夫氏、宮下光令氏、田村恵子氏、安保博文氏】

2024年度緩和ケア運営管理者 オンラインセミナー報告書

テーマ：遺族ケア～今、どう取り組むか～

対象：ホスピス・緩和ケア病棟の医長・看護師長・主任などの管理者、在宅緩和ケア・緩和ケアチームなどのスタッフ

参加者：189名

【第一部】

はじめに質のマネジメント委員会の安保博文委員より、遺族ケアガイドラインの紹介と事前アンケート調査から見た遺族ケアを行う上での課題について報告がありました。引き続き大園康文委員が、遺族ケアに関する国内外の研究結果から、海外では日本と比較して電話相談と家庭訪問が多く行われていることと、その効果について遺族の満足度を基に話されました。

また、協立記念病院の森一郎氏より「地域のサポートグループの取組み」のテーマで、ご自身が地域で取り組んでいる「がん遺族サロン」の活動紹介と実際の事例について発表いただきました。

【第二部】

予め示されたテーマ「① 各施設での遺族ケア（今取り組んでいる遺族ケアの実際、自施設の遺族ケアをめぐる課題）」「② 緩和ケア提供施設はどこまでどのような遺族ケアを担うべきか」について、5～6名のグループに別れてディスカッションを行いました。各グループで話し合われた内容はチャットに書き込んでいただき、幾つかを全体で共有した他、後日事務局で取りまとめて参加者へメールで送信しました。

終了後のアンケート（回答率62.4%）では、セミナーの内容について回答者の8割が「病棟運営にとっても役立つ」と答え、その理由として「他施設の取り組みを知る事で、共感や新たな気づきとなり、自施設の改善に役に立つ」「自施設でも新たに取組みそうなことを具体的に学ぶことができた」「全国の緩和ケア病棟のスタッフと議論を交わせることがとても貴重な機会になっている」といった声が寄せられました。また、今回は参加対象を拡大したことから、「緩和ケア病棟だけに限定せず門戸を広げて下さったことで、現場の生の声を聞く貴重な機会となり、大変ありがたいと思いました」といった緩和ケア病棟以外の参加者からの感想も寄せられました。

当日の資料は、協会ウェブサイトの会員専用ページに掲載しています（パスワード必須）

<https://www.hpcj.org/member/kanrisha.html>

2024年度専門的緩和ケアを担う 看護師の教育セミナー報告書

報告：看護師教育支援部会 高野 純子

2024年8月25日、看護師教育支援部会主催の『専門的緩和ケアを担う看護師の教育セミナー』をオンラインで開催した。テーマは、『専門的緩和ケアに従事する看護師の能力を可視化しケアに活かす～SPACE-N3ステップラダーの活用例を通して～』（以下、3ステップラダー）で、ファシリテーターを含め89名の参加だった。

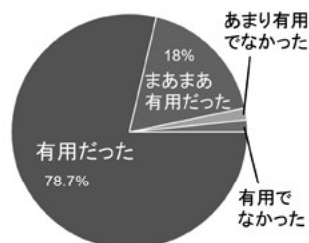
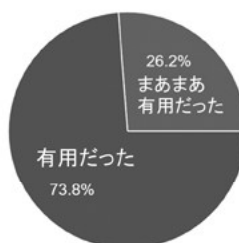
事前の参加者アンケートでは、25%が3ステップラダーを臨床現場で活用し、47%が今後活用予定と回答しており、2年前よりも3倍近くに活用・活用予定の施設が増加していた。

セミナーでは、まず部会員の高野より、3ステップラダーの概要と活用方法を説明した。続いて、福井県済生会病院の松本友梨子氏より、自施設での活用として、3ステップラダーの評価分析から、不足する能力を伸ばすよう創意工夫しながら教育プログラムを実施している状況についてご報告頂いた。その後、「3ステップラダーによる評価をどのようにケアに活かすか」というテーマでグループワークを行い、看護師教育の現状や3ステップラダーの活用状況、臨床における能力の育成などについて意見交換された。全体共有では、評価結果分析から教育にどのようにつなげるかを理解できたなど具体的に話し合われた様子が共有された。また、3ステップラダーへの質問から、3ステップラダーはキャリアアップの専門分野でのラダーであり、すでに活用している看護ラダーと合わせて考えるものではないことなどを共有した。最後に、田村教育支援委員長より、過去そして未来の自分を見つめ、緩和ケア看護の造詣を深めるために、具体的な能力が示された3ステップラダーを活用できることが話され、閉会した。

今後も、専門的緩和ケアに従事する個々の看護師や看護師チームの能力を可視化して評価できる3ステップラダーが、全国の会員の皆様の臨床実践で役立つよう普及に努めて参ります。本セミナーの開催にあたり、ご尽力頂いた皆様に感謝いたします。

【セミナー終了後の参加者アンケート結果】 回答61名

セミナーはいかがでしたか？ 全体共有はいかがでしたか？



緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度

2024年秋、協会正会員の緩和ケア病棟を対象とする、認証申請を受け付けます。
申請方法を本ニュースレターに同封いたしましたので、ご確認をお願いいたします【受付締切：10月31日必着】。



① 施設概要・利用状況調査

2024年春に実施した本調査に回答し、回答内容の公開を承諾していること。

② 自施設評価共有プログラム

2023年秋に実施した本プログラムに参加し、集計フォーマット・総合コメント・自由記載欄の意見の3点を協会へ提出していること。

③ インターネット遺族調査

遺族にインターネット遺族調査の調査票を送付後、前回の認証申請以降に、5名以上より回答を得ていること。
または医療機能評価の機能種別版「緩和ケア病院」の認定を受けており、認定証の認定期間内であること。

ホスピス緩和ケア週間

2022年10月2日(日)～10月8日(土)

世界ホスピス緩和ケアデー

2022年10月8日(土)

毎年10月、「世界ホスピス緩和ケアデー」を最終日とした一週間を、「ホスピス緩和ケア週間」とし、全国の会員、関連団体へ呼び掛け、イベント開催などを通して啓発普及活動を進めています。

今年で19回目の開催となる本企画では、ホスピス緩和ケアに関連したイベント企画を募集しております。開催予定がございましたら、是非QRコードの登録フォームよりご登録ください。

内容：ホスピス緩和ケアに関するセミナー、パネル展示、ミニレクチャー、演奏会等
※病院・診療所・訪問看護ステーションなど、地域の関係機関との共同企画を歓迎します！

開催時期・受付期間：9月1日(日)～11月29日(金)

開催形式：対面・オンライン・ハイブリットなど

詳細は協会ホームページ「2024年度ホスピス緩和ケア週間」をご確認ください



TEN YEARS SINCE
THE RESOLUTION:
HOW ARE WE DOING?
12 OCTOBER 2024
WORLD HOSPICE & PALLIATIVE CARE DAY

企画登録はこちらから



事務局通信

2025年度 入退院患者集計フォームの配付延期のご案内

緩和ケアデータベース委員会では、施設概要・利用状況調査にご回答いただく会員施設の負担を軽減する目的で、2025年度の調査項目について見直しを行っています。

見直しに伴い、例年9月頃に配付している入退院患者集計フォームの配付を、2025年1月頃に延期いたします。

インターネット遺族調査 参加施設随時募集中！

協会の正会員に登録している緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、一般病院、診療所等が対象です。参加を希望する正会員は、インターネットの申込フォームからお申し込みください。

なお、申込フォームのURLが分からない場合は、izoku@hpcj.org宛にお問い合わせいただければ、URLをご案内いたします。

